

千畝と幸子『命のビザ』朗読劇

10月4日のきらりカフェ本番に向けて、朗読劇の練習会が行われました。語り部のみなさんの声にも熱が入ります。



「あめんぼ あかいな あいうえお!!」
8月28日(日)、錦津コミュニティセンターの館内に、発声練習の音が響きました。杉原千畝氏の人道精神を地元から発信しようと、朗読劇に参加している同志の声です。杉原氏の心を、この八百津町から広めていきたいと、今回朗読劇を企画しました。

可児市で25年間、朗読活動をしている『夏の会』と連携を図るため『きらりの会』を立ち上げました。目指すは、10月4日(火)のきらりカフェでの発表です。

企画を立ち上げるまでに、多くの苦労もありました。杉原千畝記念館へ赴き、氏の生涯を学び、文献も丁寧に目を通しました。杉原氏の生家のある北山の空気も吸いまし

た。とある詩から物語は始まりますが、それはメンバーが北山の地に訪れたことで生まれたものです。ようやく6月に台本が完成し、7月に人道の丘でメンバーの顔合わせが行われました。

今回の朗読劇は、杉原氏を支えた妻・幸子さんにスポットを当てたものです。

練習の中でも、きらりの会の女性のみなさんのはつらつとした声色がとても印象的でした。もちろん、男性の力強い声も心を揺さぶるものがあります。みなさん、家でも台本に目を通し、練習を重ねています。

参加者は、「舞台に立つことが初めてなので緊張するが、がんばりたい。」「発音が難しかったり、朗読が初めてなので無我夢中ですが、精一杯やりきりたい。」といった意気込みを語りながら、練習に励んでいました。

